





414  
A 1057



近年我カ金貨ノ多ク外出スルヨリ之ヲ濫出  
 シテ杞憂ヲ抱ク者東西ニ紛起シ各其意見  
 ヲ述ヘ其論辨ヲ逞ウスト雖モ未タ其良法ヲ  
 明ニスル者ヲ觀ス或ハ現時金貨ノ外出ハ自  
 ラ其故アルモノニシテ之ヲ濫出トハ謂ヒ難  
 ク又以テ憂ト為スニ足ラサルヲ主張スル者  
 アリ是亦其理ナキニハ非サレバ我邦今日ノ  
 實況ニ拠ルニ濫出ニ非ストシテ之ヲ空視ニ  
 付スル者ハ共ニ愛國ノ義務ヲ議ルニ足ラサ  
 ルナリ寧ロ之ヲ濫出トシテ正ニ其防禦策ヲ

大正十一年四月  
隈侯爵郵寄贈

人.



整理スルノ信且切ナルニハ如カス蓋シ其策  
ハ數項アリト雖モ之ヲ要スルニ内國物産ノ  
製造ヲ盛ニシ内外通商ノ權衡ヲ量リ漸ク輸  
出品ヲ増殖シテ輸入品ヲ減殺セシムルニ在  
ル而已既ニ政府ニ於テハ先見ヲ立テサ  
セラレ勸業寮ヲ置キ以テ百業ヲ勸奨シ勸商  
局ヲ設ケ以テ諸商ヲ誘導ス撫恤保護ノ主旨  
至レリト謂フヘシ時期此ニ至テ尚ホ曠日偷  
安蠢爾トシテ自ラ奮ハサル者間々之レアル  
可シト虽モ苟モ我カ人民タル者ハ誰レカ斯

ノ主旨ヲ奉体シ斯ノ事業ニ汲々タルヲ欲セ  
サランヤ唯タ其志ニ厚キモ其力ノ不及ヨリ  
其目的ヲ達スル能ハス遂ニ膏餅トナルニ過  
キサルノ之私共此ニ憾アリ今回同志協議ノ  
上江湖組ナルモノヲ起立シテ其志ヲ遂ケシ  
ノ其力ヲ伸ヘシメ以テ民産ノ功用ヲ翼成セ  
ントス何カ故ニ之ヲ翼成スト謂フ此組ハ國  
内一般ニ為換貸金ノ便法ヲ開モテ物債ノ運  
輸ヲ安全ニシ財産ノ交通ヲ自由ナラシムル  
ヲ以テナリ審ニ之ヲ言ハハ縱令ヒ闔國ノ人



民ニ政府ノ主旨ニ依從シ舉ツテ其志ヲ獎  
勵スルモ資財ノ匱シキニ妨碍セラレ運輸ノ  
危キニ阻遏セラル、片ハ之ヲ若何トモスル  
コナク已ヲ得スシテ半途ニ其志ヲ挫キ到底  
其事業ヲ振興スル能ハサルニ至ル然ルキハ  
我カ内國ノ製産ヲ張リ通商上ノ贏利ヲ占ム  
ルハ果シテ何ノ時ニ在ル哉ヲ豫期スヘカラ  
サル而已ナラス至仁至明ナル政府ノ主  
旨モ竟ニ烏有ニ帰スヘキナリ今此組ヲ全國  
ニ布置シ別冊ノ如キ方法ヲ以テ之ヲ彌縫ス

ルキハ究海僻陬ニ至ルマテ其安全ニ頼リ其  
自由ヲ得テ此ノ如キ弊患ナキヲ保ツニ足ルヘ  
シ而メ已ニ資財ノ自由ト運輸ノ安全ヲ得ル  
ニ至レハ製産自ラ流動シ外邦ニ對シテ我カ  
商權ヲ揮フニ何ノ難キヤカ之レ有ン就中北  
海道ノ物産ノ如キハ支那列ニ輸出スヘキモ  
ノ最モ多ク利モ亦極テ大ナリ私共往キニ其  
物産ヲ輸送シ屢々之ヲ親驗シテ能ク其情實  
ヲ知レリ頃口聞ク官ノ保護ヲ蒙リ此美舉  
ニ着手セントスル者アリト實ニ歡喜ノ至ニ



堪ハス曾テ以為ラク支那亦均シク外邦タリ  
ト雖モ通商上ヨリ之ヲ論スレハ内國視スル  
モ可ナリト故ニ今江湖組ノ實業ニ於テモ歐  
米諸洲ハ姑ク舍キ先ツ之ヲ内國ニ施シテ直  
ニ彼ノ上海漢江天津等ニ及ホシ以テ國家洪  
益ノ便誼ヲ圖リ終ニハ本組所屬ノ帆走船ヲ  
モ具ヘテ彼我ノ運輸ヲ充全ナラシメ此ニ從  
事スル者ノ輔弼ニ任セント欲スルナリ則チ  
此美舉アルニ際シテ豈ニ奮心快想ヲ倍蓰セ  
サルヲ得ンヤ只冀クハ速ニ同盟ノ所望ヲ貫

徹シテ偏ニ愛國ノ義務ヲ尽サンコトヲ然レモ  
歎ノ事業ハ巨額ノ資本金ヲ要スルヲ以テ一  
朝ニ完備ヲ求ルト甚々難シ將ニ不拔ノ良策  
ヲ立テ漸次ニ其大成ヲ觀ント期ス幸ニ鄙衷  
ヲ垂愛シテ本組ヲ全國ニ布置スルノ許可ヲ  
賜ハ、獨リ組中ノ榮ノミナラス公共ノ介福  
モ焉ニ過ルモノアル可ラス於是乎其方法ヲ  
併陳シ以テ稟請ス誠恐誠惶頓首頓首

明治九年第十二月四日

江湖組發起人總代



大坂府下第三大区五小区

立賣堀北通五町目十六番地  
平民

筑紫藤三郎 (印)

右筑紫藤三郎

名代相兼

東京府下第一大区十五小区  
南茅場町二十六番地

水 郎 萬 平

右之通出願ニ付奥印仕候也

右區戶長

寫 崎 義 喬 (印)

東京府權知事楠本正隆殿

京府  
課

第二百二十九号

書面願之趣ハ當時會社條例取調中ニ付  
追テ何分ノ儀相達候迄此規則ヲ以テ當  
業候儀ハ人民相對ト可相心得事

但規則第二十一章中掛紙ノ文字削  
除可致且ツ分鋪支店設立方ハ其管  
轄廳へ申出美圖請候儀ト可相心得  
事

明治十年一月十六日

東京府權知事楠本正隆 (印)



江湖組規則並營業則及定款

第二卷之十

Faint red text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.



114  
A1057  
2

江湖組規則緒言

大正十一年四月  
隈侯爵寄贈

今回江湖組ヲ創立シ其規則ヲ定ルニ臨テ先  
ツ一言ヲ叙セントス夫レ本組ノ事業タルヤ  
漸ク進シテ已ニ内國一般ノ整頓ヲ觀ル所ハ  
尋テ之ヲ海外ノ諸港ニ及ホシ以テ彼我ノ交  
通ヲ盛ニシ内外ノ應援ヲ逞ウセシテ欲スル  
ニ在リト雖モ之ヲ一現業ノ功用ヲ成サシム  
ルハ實ニ近易ノ事ナラス故ニ入社株金ノ方  
法ヲ設ケテ東京及ヒ諸國ノ有志者ニ議リ廣  
ク同盟ヲ集メ大ニ資本金ヲ醸シ其協力ニ頼



テ本組ノ成切ヲ期セントス然レモ此ノ事業  
ニ充用スヘキ巨額ノ資本金ヲ完備シ而後此  
ニ從事スル如キ弛緩ノ行為ハ愛國者流ノ東  
心ニ背キ或ハ又遂ニ虚構トナルニ至ラン是  
ヲ以テ即今同盟ノ者ヨリ僅ニ金三萬圓ヲ合  
投シ之ヲ創立資金トナシテ奮然斯業ニ就キ  
先ツ東京本行及ヒ大坂函館ノ分舗ヨリ着手  
シ同盟ノ増加スルニ随ヒ節次ニ之ヲ擴張セ  
シトス而メ縦令ヒ少許ノ資財タモ敢テ之ヲ  
惜マザルモ他ナシ國家ニ缺クヘカラサ

ル事業ヲ實踐シテ海内諸兄弟ノ先導ヲナシ  
且將來大成ノ目途アルヲ以テナリ豈ニ蠱測  
ノ譏ヲ顧ルニ遑アラシヤ

### 江湖組規則

#### 第一章

本組ハ何國何地ニ於テモ江湖組ノ稱號ヲ以テ  
荷為換金ノ融通ヲ主トシ運輸ノ便利ヲ從トシ  
傍ラ諸物産ノ賣買ニ關係シテ公私ノ永益ヲ圖



ル事

但ニ荷為換ハ百貨ヲ流通シ民産ヲ隆興ス  
 ルノ主意ニ出ルカ故ニ各地同組ニ於テ便  
 易ノ取扱ヲ為スヲ要ス一例ヲ舉レハ各縣  
 ノ人民該廳へ收納スヘキ貢米何萬何千何  
 百石ニシテ此代金何萬何千何百圓ナルニ  
 僻地寒郷ノ住民ハ産品ヲ貯ヘナカラ金融  
 ニ困迫セラレ自然其收納ヲ淹滞シ本年ノ  
 貢税ハ翌年ニ及シテモ尚ホ之ヲ皆納スル  
 不能ハス遂ニ地方官ノ煩冗ヲ致シ己レノ

罪責ヲ招クニ至ルモハ畢竟為換ノ便法  
 ナキニ因ル是ヲ以テ各方ニ同組ヲ分置シ  
 斯ノ如キ人民ノ貢穀及ヒ品位アル諸物産  
 ハ悉皆之ヲ引受ケ該地ノ區戸長若クハ身  
 元體成者ヲ保証人ニ立テ其實價ヲ審査シ  
 五六歩乃至七八歩ヲ定度トシテ為換金ヲ  
 貸渡シ然後各人ノ需ニ應シテ之ヲ運輸ヲ  
 ナスヲ以テ本組ノ專務トス而シテ運輸ノ  
 手續ハ本組ノ定則ニ照準シテ之ヲ行フベ  
 シ又荷主ノ意向ニ依テ賣捌迄ヲ托セラル



ルイアレハ各地ノ同組ニ於テ引受ケル之  
ヲ取扱フベシ  
運輸ハ遠近ノ有無ヲ通シテ安全速達ヲ主  
トスルカ故ニ海運ハ概子三菱會社ニ任シ  
陸送ハ姑ク通運會社ニ依ルヘシト雖モ其  
不便利ナル所ハ兩社ト合議ノ上可否ヲ擇  
定シテ預メ條約ヲ交換シ置キ又海陸運輸  
物ノ保險法ヲ定立スル迄ハ本組ト貨主ト  
ノ際ニ於テ互ニ保助スルノ方法ヲ備ヘ語  
リ江湖組設立ノ本旨ニ適セシムルヲ要ス

ス  
物産ノ賣買ハ本組自己ノ賣買ニ非ス即チ  
為換附ノ貨物ニシテ其貨主ヨリ賣捌ヲ任  
セラレ又他ヨリ諸物品ノ買入ヲ托セラレ  
ルハ此ニ擔當シテ確實ノ取扱ヲ為スナ  
リ其取扱ハ大抵内外諸問屋ノ振合ニ準シ  
テ只其冗雜ヲ省キ自他ノ便益ヲ圖ルニ着  
目スルヲ要ス例ハ本組ニ於テ賣捌ヲ任  
セラレタル為換附ノ貨物ハ營業則第七條  
第八條ニ照準シ能ク其有無ヲ量テ之ヲ行



又諸物品ノ買入ヲ托セラル、片ハ各地  
同組ノ確証ニ依テ之ヲ取扱ヒ僅ニ定限ノ  
手数料ヲ受テ隨時ニ其用ヲ達スルノ類  
是レナリ

第二章

本行ヲ東京第一區南茅場町十五番地ニ立テ分舗ヲ大  
坂第二區新管館上ニ置キ支店ハ之ヲ各縣各方ニ備  
ヘテ其業ヲ管ニ内國ノ人民ヲシテ便益ヲ得セ  
シムベキ事  
但シ各縣ハ道程距離ノ遠近ニ随ヒ或ハ二

三ノ支店ヲ具ヘ北海道ノ如キハ東西ノ海  
津其他内部要衝ノ地ヲ擇ニテ處々ニ之ヲ  
置キ函館分舗ニ於テ之ヲ包管ス而シテ本行  
ノ委員ハ絶ヘス分舗及ヒ支店ヲ巡視シテ  
警査ヲ嚴密ニシ若シ本組ノ定則ニ悖戾ス  
ル者ハ之ヲ正副社長ニ報シ  
又各地ノ現業上ニ不都合ノトアレハ之ヲ  
社中ノ協議ニ付ス  
第三章  
本組ノ資本金ハ同盟ノ湊加スルト社業ノ進盛



スルニ随テ漸々増殖スベシ故ニ今豫メ其額ヲ定メ難シ仍テ左ニ署名スル發起人ノ中ヨリ先ツ金三萬圓ヲ曝出シ之ヲ創立資金トシテ正ニ此業ヲ開ケリ而メ今後入社ヲ乞フ者ハ一株(五拾圓)ヲ一株トシ以上出金ノ分ヲ本組ノ株主ト定ムルキ事

但除名セシムル氏ハ其株金ヲ返スヘシ然レバ其年其株金ニ生スル利益ハ一切之ヲ分與セサルモノトス

出金 高 屬籍住所 姓 東 名

金貳萬圓	東京府下第一六區十五小區 南茅場町二十六番地	出金人總代 木村 萬平
金壹萬圓	大坂府下第三大區五小區 立賣堀北邊五丁目十六番地	平民 筑紫藤三朗
合金三萬圓		

第四章

凡ソ株金ヲ以テ入社スルイハ何時ヲ擇ハスト雖モ株主ノ列ニ加ハルイハ毎年第一月ヲ以テ例規トス故ニ若シ一月後出金ノ分ハ一個年一割ノ利子ニテ之ヲ預リ置キ翌年第一月ニ至テ之ヲ本組ノ株金ト定メ其人ヲ株主ニ列スヘキ事



第五章

入社株金ノ外本組預リ金ノ利子ハ滿一個年ノ  
モノハ一年ニ八分十三個月以上ノモノハ一年  
ニ一割ノ利子ヲ差出スヘキ事

第六章

凡テ株主ノ出金高ハ本行ノ本帳ニ駐記シ此ニ  
割印シタル株券ヲ渡スヘシ己ニ株券ヲ渡セシ  
上ハ株主ニ於テ何等ノ事故アリト雖モ毎歲會  
議ノ節其事由ヲ詳明ニシ組中ノ協同ヲ得ルニ  
非レハ除名シテ其本金ヲ取戻スノヲ得ヘカラ

カル事

第七章

株主其株券ヲ私ニ讓渡スハ勿論假令一時ノ融  
通ヲ以テ質入書入抵當等ニ運用ストモ必ず正  
副社長ノ公認ヲ得ルニ非レハ肆ニ之ヲ行スヘ  
カラズ若シ之ヲ犯ス片ハ株券金額ニ倍スル過  
怠金ヲ課スヘキ事

第八章

萬一規則ヲ犯シ株券ヲ二重或ハ三重ニ質入書  
入抵當等ニ差出シ他日此ニ因テ紛争ヲ生スル



トモ本組ニ於テハ決シテ之ヲ関知セス素ヨリ  
之ヲ争償スヘカラサル事

第九章

本分行舗及ヒ支店ノ總勘定ハ毎年兩度ト定メ  
六個月毎ニ精算シテ益金ハ之ヲ總株主ヘ割賦  
スヘキニツキ其都度本行ニ於テ計算表ヲ作り  
社中ハ勿論其他本組ニ関係アル者ヘハ悉ク之  
ヲ廣告スヘキ事

但シ分舗精算ノ期ニ臨ンテハ本行ヨリ幹  
事一名出張シテ其帳簿ト計算表トヲ照査

シ支店ノ計算表ヲ併セテ之ヲ本行ニ集合  
ス故ニ支店ヨリハ精算ノ期ニ先テ其明細  
ナル計算表ヲ最寄ノ分舗ニ送送シ廣告ノ  
時日ヲ遅延セシメサルヲ肝要トスヘシ

第十章

利益金分配方ニ本組ノ諸経費ヲ引去リ入社株  
金ノ初年ハ属スルモノハ一割二年ニ属スルモノ  
ハ一割二分三年ヨリ以徃ハ本分行舗及ヒ支  
店總勘定ノ純益金ヲ以テ其株金高ニ應シテ等  
ニ割賦スヘキ事



但ニ初年二年ノ利益金分配ノ餘金ハ本組  
ノ積金トナスヘシ

### 第十一章

都テ株金ハ荷為換弁ニ其他ノ實用ニ供スルヲ  
以テ此ヨリ生ズル利益ハ第十章ノ定則ニ從ヒ  
三年以後ハ其株金高ニ應ニ平等ニ割賦スヘシ  
ト云モ若シ又損失アル片ハ各出金ノ高ニ准シ  
テ共ニ其損失ヲ受クヘキモノトス然レモ入社  
ヨリ初年及ヒ二年ニ屬スル株主ハハ只利子ヲ  
分與スル迄ナレハ其損失ハ被ラシヌサル事

### 第十二章

株主自己ノ都合ニヨリ其株券ヲ他ニ賣渡シ或  
ハ讓渡スルハ自由タルヘシト云モ其時ハ必ス  
其旨ヲ本行へ申出シ其株券ヲ書替ヘキハ勿論  
何等ノ價ニテ受渡ヲナストモ其原金高ヲ以テ  
書替ルヲ定規トス而モ已ニ其株券ヲ受ケタル  
本人ハ爾后正シキ本組ノ株主ト成ルヘシ然レ  
モ其買主又ハ讓受主ノ人品ニヨリテハ之ヲ拒  
ムノ權利ヲ本組ニ有スヘキ事

### 第十三章



株主ノ中ニ家賃分散ニ及フイアル片ハ其株券  
ヲ公賣スヘシ若シ買受人ノナキ片ハ組中合議  
シテ其公價ヲ立テ本組ノ積金ヲ以テ之ヲ購ヒ  
或ハ其公價ヲ以テ一人若クハ數人ニテ之ヲ買  
受ケ或ハ總組中ニテ各個ノ株金ニ應シ出金シ  
テ之ヲ買取ルヘキ事

#### 第十四章

確實ナル抵當物アリトモ荷為換ノ用ニ供シタ  
ル資本金ハ之ヲ他ニ貸スルヲ禁ス但其贏餘ヲ  
以テ權貸スルイアル片ハ正副社長幹事等ノ義

認ヲ得テ然後之ヲ行フヘキ事

#### 第十五章

本組ノ積金ヲ以テ家屋地所及ヒ他ノ賣買ヲナ  
スヘカラス又他ノ工職ヲ真スヘカラス但本組  
ノ營業ニ関シテ取りタル典物等ハ此限ニアラ  
ザル事

#### 第十六章

本組ノ正副社長幹事主記主計等ノ委負ハ發起  
人中ノ公選ヲ以テ之ヲ定ムヘシ若シ發起人中  
ニ適任ノ者ヲ缺キ之ニ充ルモノアラサル片ハ



候議ヲ以テ株主ノ中ヨリ之ヲ選舉スヘキ事

第十七章

正副社長及ヒ其他ノ委負等本組ノ資本金及ニ  
積金ヲ消費シテ私用ニ供シ或ハ其他奸偽私欲  
ノ所業ヲナシ本組ニ損害ヲ與フル片ハ其缺損  
ヲ贖ハシムル所已ナラス組中合議ノ上退任セ  
シメ且其消費シタル金額ニ三倍スル過怠金ヲ  
課スヘシ然レモ何等ノ損失アリテ本組ノ不都  
合ヲ釀ストモ其事由明瞭ニシテ其人ノ責ニ屬  
セサルモノハ贖及ヒ過怠金ヲ課スヘカラス斯

ノ如キ片ハ其時ノ都合ニ随ヒ連坐ノ法ヲ以テ  
正副社長幹事等ヨリ之ヲ賠償スル致或ハ組中  
ノ候同ヲ得テ本組ノ積金ヲ推用シ以テ其缺ヲ  
補フヘキ事

第十八章

諸帳簿ノ製法ニ書載ノ法ハ總テ其式ヲ一ニシ  
殊ニ金銀ノ出納及ヒ諸入費ノ計算ハ最モ之ヲ  
嚴正ニスルヲ要ス又後証トナルヘキ諸簿冊  
受取書其他本組ノ往復文書等ハ皆年月部類ヲ  
分チ之ヲ本分行補及ヒ各地支店ニ修葺スヘキ



事

但シ本分行舗各地支店トモ會計帳ハ最モ  
書載ヲ明瞭ニシテ本組ノ者若シ本組ニ関  
係スル者ノ檢閲ニ供シ易カラシムヘシ又  
會計上ニ疑點アラハ審ニ之ヲ説明スルハキ  
事

第十九章

本組ニ関スル諸般ノ証書約定書類ニハ本組ノ  
正印ヲ捺シ之ニ正副社長幹事主記ノ各印ヲ加  
フヘシ若シ此等ノ委負ニシテ正印ヲ私用ニ供

スル如キ不都合ノ事アル片ハ其惡事ノ大小ニ  
随ヒ至當ノ過怠金ヲ課シ且各方ノ新聞紙ヲ以  
テ之ヲ公告スルハキ事

第二十章

本組ハ縱令ヒ時勢ノ變替ニ遭遇スルトモ其營  
業ヲ廢止スルヘカラサル事

第二十一章

現業實施ノ際ニ方リ此規則ヲ改正増補スルハ  
ハ組中悞同ノ上ハ常ニ妨ケナシト雖モ之ヲ改  
正増補セハ必ス所轄ノ官廳ニ上申シ且新聞紙



ヲ以テ之ヲ廣告スヘシ又正副社長幹事主記主  
計等ノ退任シ若クハ交代スルハ同様タルヘ  
キ事  
右ノ規則ハ現今發起同盟ノ者悞議ノ上之ヲ確  
定セリ今後本組ニ列スル株主ハ勿論其子孫及  
ト後見人代理人其他本組ニ関係スル者ハ皆能  
ク之ヲ遵守シテ毫モ乖戾スヘカラサル事

### 江湖組營業則

#### 第一條

為換貸金ヲナスニハ先ツ其物品ヲ點檢シテ負  
類貫目等ヲ嚴密ニ調査シ然後訂約証書ト引換  
ヘ約定ノ金負ヲ相渡スヘキ事

#### 第二條

為換貸金ヲナスニハ其物品ニヨリテハ問屋仕  
切勘定書ヲ以テ荷物ヲ照査シ尚ホ問屋ニ可否  
ヲ移咨シ本組ノ委員再檢ノ上之ヲ為スヘキ事

#### 第三條



問屋ノ仕切勘定書ナキ荷物ノ為換ハ現品ヲ換  
査シ其實價ヲ品定ニテ相當ノ貸金ヲ渡スヘキ  
事

但シ確實ナル保証人アルモノハ此例ニ非  
ス

第四條

為換貸金ノ利子ハ百分ノ一五ヨリ多カラズ百  
分ノ一ヨリ少カラズト重モ各地各方ノ遠近便  
否及ヒ其他ノ實況ニ隨テ之ヲ増減斟酌スハキ  
事

第五條

荷物為換金ハ其物品ニヨリテ元價高ノ七八ヨ  
リ五六割マテヲ定度トシテ貸渡スヘキ事

第六條

荷物受取ノ証書ハ本組ノ正印ニ委負ノ實印ヲ  
加ヘテ之ヲ渡スヘシ又為換金ヲ渡ス片ハ借主  
ノ確証ヲ受取ルヘキ事

第七條

為換貸金ノ物品本分行舗及ヒ支店ニテ賣捌ノ  
分若シ荷主ノ差圖直段ニ及ハサル片ハ其事實



ヲ詳記シテ荷主へ報シ示談ノ上可成丈ケ荷主  
ノ利益トナル様取計ノ可キ事

第八條

本分行舗及ヒ支店ニテ賣捌ヲ任セラレタル物  
品、為換貸金ハ荷着後三日ヲ定限トス而シテ第  
四日ヨリ賣捌ノ日マテハ金百圓ニ付一個月金  
壹圓五十錢ノ割合ヲ以テ其利子ヲ受クヘシ己  
ニ賣捌タル上ハ貸金ノ元利及ヒ諸入費等ヲ扣  
除シテ餘金ヲ荷主へ渡スヘキ事

但シ物品ノ着日并ニ賣捌模様及ヒ時日等

ハ其度毎ニ物産方ヨリ之ヲ荷主へ報知ス

ヘシ

第九條

届ケ先ノ定リタル荷物、為換貸金ハ荷着當日  
ヨリ三日ヲ限り之ヲ受取ルヘシ若シ事故アリ  
テ日延ヲ乞フ者アレハ第四日ヨリ十五日ヲ猶  
豫シ金百圓ニ付一個月貳圓五十錢ノ割合ヲ以  
テ其利子ヲ取ルヘキ事

第十條

為換貸金ノ物品時價ノ下落ニヨリ送先ニテ貸



金ヲ渡サ、ル片ハ元利諸入費トモ荷主ヨリ速  
ニ返辦セシムヘシ但シ送先ニテ為換貸金ヲ渡  
サ、ル片ハ其旨ヲ荷主ヘ示談シテ其物品ヲ賣  
捌キ貸金元利及ニ諸入費ヲ引去リ若シ其金負  
ニ不足アラハ荷主ヨリ之ヲ償ハシムヘキ事

### 第十一條

船便ニテ運送ノ物品ニ為換貸金ヲ乞フモノハ  
出船三日前マテニ本組へ物品ヲ專托スヘキ事

### 第十二條

荷為換ト危難請負トハ相離ルヘカラサルモノ

ト重モ現今保險ノ法尙ホ未タ備ハラサルヲ以  
テ本組ニ於テハ姑ク互ニ保助スルノ方法ヲ設  
ケ實施ノ際ニ荷主ト相謀リ共和ノ上之ヲ行ス  
ヘシ然ラサレハ船運陸送トモ創業中ハ姑ク三  
菱通運ノ兩社ニ任スルヲ以運送中ニ生スル損  
失ハ本組ノ倒預スル所ニ非スシテ其損失ニ因  
テ為換貸金ノ損害ヲ被ルヘカラサル事

### 第十三條

為換貸金ノ帳簿ニハ番號呂附元金及ヒ荷主ノ  
姓名住所年月日時等ニ至ルマテ明細ニ之ヲ記



スヘシ且荷札上包ニモ記號合印等ヲ用ヒテ照  
認シ易カラシムヘキ事

第十四條

本分行舖各地支店トモ其土地諸物品ノ時價高  
低ニ注意シテ明細表ヲ作り毎常郵便ヲ以テ互  
ニ往復スヘキ事

第十五條

為換貸金ノ淹滯商業ノ過失及ヒ其他ノ事故ニ  
因テ資本金ノ減少ヲ致ス片ハ毎年利益金ノ内  
幾分ヲ折テ之ヲ補フヘキ事

第十六條

本分行舖及ヒ各地支店ニ於テ取扱フタル物品  
ハ水揚諸棧リ及ヒ藏敷等ノ諸費ヲ荷主ヨリ受  
取ヘキ事

但シ其帳簿ニ明細ヲ記シ毎月盡日ニ諸拂  
ヲ皆済スヘシ

第十七條

諸貨物賣捌及ヒ買入ノ取扱ハ規則第一章ニ論  
セシ如ク諸問屋ノ振合ニ準シ且時宜ニヨリテ  
ハ為換荷物ノ外タリトモ他ノ依托ニ應シテ物



品ノ賣買ヲ取扱ヒ相當ノ手数料ヲ受ルルモ有  
之ヘキ事  
右ノ外營業則ハ實際ノ施行ニ當リ本組ノ便宜  
ヲ以テ時々取捨増減シ其都度之ヲ廣告スヘキ  
ナリ

附

諸証書ノ式大略左ノ如シ

### 株金証券

第何号

一金五拾圓也

右者當組ニ御加入相成株金トシテ正ニ受取  
當組ノ株金本帳ヘ記載シ資本金ノ内ハ差加  
候處實正也然ル上ハ自今當組ノ諸規則定款  
約定等ヲ確守可被成ハ勿論若シ此証券ヲ賣  
渡シ又譲渡シ相成候節ハ當組ヘ持參被成當  
組承諾ノ上取引為相濟可申候仍テ證券如件



年月日

江湖組印

社長

幹事

何某印

何某印

何某印

前件相違無之仍何年何月何日此金高ヲ  
株金本帳へ駐記致シ候事

江湖組主記何某印

株券賣買ノ証書

第何号

一株金証券何枚也

此金高何百圓也

右者何某所持ノ証券今般何某へ買受人ノ姓

名讓渡シ書面ノ金高受取渡シ相濟候處實正

也然ル上ハ向後買受人ハ勿論其相續人後見

人ニ於テモ之ヲ所持シ何某賣渡人ノ姓名所

持中ト同様ノ規約ヲ遵守可致候也仍テ証書

如件



何騎管下第何大區何小區町番地  
賣渡人 姓名 印

何騎管下第何大區何小區町番地  
買受人 姓名 印

何縣管下第何大區何小區町番地  
証人 姓名 印

江湖組御中

預り金之證

一金何圓也

右ノ金負當組ニ於テ相預リ置候處實正也若  
シ御入用ノ節ハ何時ニテモ元利返却可致候  
但シ利子ノ儀滿壹ケ年ハ年八分十三ケ月以  
上ハ年壹割ノ割合ヲ以テ相拂可申候尤百日  
以内返済ノ分ハ利子差出不申候為後證預リ  
全證書仍而如件

年月日

江湖組印

社長



何某印

幹事

何某印

宛

名殿

一 金何百箇  
元價何萬何千圓也  
荷為換金何萬何千圓也  
貸渡ニ高  
此利子金何百何拾圓也  
爰元相濟  
前書之荷物正ニ相預リ書面之金高當所ニ於  
テ御貸渡ニ申候然ル上ハ送状高ニ從ヒ何ノ  
某所ニ於テ訂約ノ通リ荷着三日ノ内右金額  
御持參相成候上引換ニ右荷物御渡可申候也

為換荷物預リ證

一 荷物何百箇

何百箇何々

元價何萬何千圓也

荷為換金何萬何千圓也

此利子金何百何拾圓也

前書之荷物正ニ相預リ書面之金高當所ニ於

テ御貸渡ニ申候然ル上ハ送状高ニ從ヒ何ノ

某所ニ於テ訂約ノ通リ荷着三日ノ内右金額

御持參相成候上引換ニ右荷物御渡可申候也

年月日

某所 江湖組印



平... 社長

... 何... 印

... 幹事... 印

... 何... 印

其所荷主

何... 誰

右保証人

誰殿

一... 何

荷為換金借用証

一金何萬圓也

此利子金何百圓也

此引當荷物何萬何千箇

內何千何百箇

元價何萬何千圓

右ハ何縣下何國何所何ノ誰方ハ差送候荷物

何月何日何所通運會社江積出荷為換トニテ

書面ノ金高借用致シ候處實正也然ル上ハ荷

着三日ノ内ニ何某誰方ヨリ右借用金返手荷

物引取可申候若シ無據事故ニテ期日ノ猶豫



頼入候節、第四日ヨリ尚十五日御差延被  
下左一個月金百圓ニ付貳圓五拾錢ノ割合ヲ  
以テ右借用金高ニ應ズル利子ヲ差加ヘ返金  
致スヘキ約定相違無之候且都合ニ依テ右荷  
物賣捌候事ニ及ヒ若シ賣上代償ヲ以テ借用  
金元利共皆済難相成又ハ非常ノ災害ニ罹リ  
荷物損失有之候節ハ本人ハ勿論保証人共ニ  
引受連ニ返辨可仕候為後証仍面如件

一 全所 何

何府管何第六區何小區村番地

年月日 何 借主

何 某 印

右同断

保証人 何 某 印

某所

江湖組

社長

何ノ誰殿

幹事

何ノ誰殿



荷物送状之事

一 荷物何萬箇

内 何千箇

何々

但

貫目  
石數

運賃金何千圓

爰元相濟

此荷為換借用金何萬圓

利子金何百圓

爰元相濟

右ハ何地何社又ハ何所何某ハ荷為換取組何

月何日何所港通船會社ニテ差送候條其地荷着

三日ノ内ニ荷為換借用金返濟ノ上荷物受取

Blank page with vertical lines for writing.



渡可被成候其他都于江湖組定則之通兼知致  
臣候也

其何往居

荷主 何 / 誰 印

右同新

保証人 何 / 誰 印

江湖組御中

其何往居 何 / 誰 殿

何 / 誰 殿

荷物送狀之事

一 荷物何萬箇 內何千箇何

此總貫數何程

元價何萬何千圓

此運賃金何程 爰元相濟

右荷物何月何日 何所通運會社二 差送候條

其地荷着 / 上逐一相改御受取可被成候也

某所

年月日 江湖組印



社長  
何某印

幹事  
何某印

運輸  
何某印

某所

何某印

江湖組

社長  
何某

不  
誰殿  
諾合委員中

為換金証券

某所何任居

出  
何  
誰

一何萬何千圓  
但通用金

右ノ金負爰元ニ於テ正ニ受取申候此手形引  
換書面ノ金負御渡可被成候也

某所

江湖組印

社長

何某印

年月日



其所

江湖組

社長

幹事

會計

主何

幹事

何某印

主計

何某印

誰殿

誰殿

誰殿

江湖組定款

己ニ論セシ如ク本組ノ營業ハ荷為換金ノ融通  
 ヲ主トシ之ヲ内國一般ニ施シテ直ニ支那諸港  
 ニ及ホシ終ニハ歐米諸州ヘモ進入スヘキ目的  
 タリト雖モ巨額ノ資本金ヲ要スルカ故ニ是ヲ  
 一挙ニ完クスル能ハサルヲ以テ株金募集ノ方  
 法ヲ立テ共同ノ力ニ依テ漸次ニ本組ノ事業ヲ  
 擴張セシト欲スルニ就テハ組中ノ各員ハ非常  
 ノ耐忍力ヲ揮ヒ非常ノ黽勉ヲ加フルニ非レハ  
 蓋シ中途ニシテ其志業ヲ厭棄スルコトアラニ因



テ爰ニ定款ヲ略陳シテ同盟ノ誓約ニ當ツル  
左ノ如シ

第一款

凡ソ小ヲ積ミ大ヲ成スハ事物ノ上ニ離ルヘカ  
ラナルノ實理ナリ故ニ現在ノ資本金ハ仮令ヒ  
少許ノモノナリト雖クモヲ保全シ同志ノ悞力  
黽勉ニ依テ逐月ニ増加シ連年ニ倍殖シ盛業ノ  
目途ヲ一駁ニ進捗セシムルヲ要トスヘシ

第二款

現金ノ實負以テ正シテ簿冊上ノ虚偽ヲ防キ會

計ヲ明ニシテ隱私ヲ禁シ目前ノ小利ニ迷フテ  
創業ノ要旨ヲ誤ル勿ラシイヲ期ス

第三款

本組ノ委員ハ忠實公卒ヲ以テ商務ヲ弁理シ組  
中同盟ハ義兄弟ニ比シ情交ヲ密ニシ愛敬ヲ盡  
シ互ニ盟約ヲ遵守スヘキハ勿論萬一不慮ノ艱  
虞ニ遇フ片ハ同心戮力シテ保助ヲナスヘキナ  
リ

第四款

本組ノ費用ハ勉テ之ヲ省略シ組中一同質素ヲ



旨トシ會合ノ時ト垂モ飲食ノ奢靡ヲ禁シ極テ  
本組ノ目的ヲ盛大ニ達セシムヘシ

第五款

開業ノ初ニ當テハ其事務ニ習熟セサルヨリ自  
然不都合ノ所為ナカラシム事ヲ保テ難シ故ニ本  
行ヨリ交番ヲ以テ適任ノ委員ヲ派出シ諸方ノ  
分舖支店ヲ巡視シ其不逮ヲ接ヒ其缺漏ヲ補ハ  
シムヘシ

第六款

本組創立ノ際ハ別ニテ同盟ノ協力ニ依リ萬事

ヲ合議ニ決スト垂モ各々此ニ負擔シテ其責ニ  
任スル者之レ無ケレハ事業ノ進歩ヲ取ル能ハ  
ス故ニ正副社長幹事主記主計等ノ委員ヲ撰定  
シテ其推任ノ制限及ヒ賞罰其他諸般ノ要務ヲ  
整理スヘシ

第七款

社長ハ本分行舖及ヒ各地支店ノ事務ヲ統括シ  
社業ノ成否ヲ以テ其責ニ任シ成規ノ事項ハ之  
ヲ專斷執行スヘシ但シ小事タリハ新ニ規則ヲ  
起シ成規ヲ變更スルハ組中ノ協議ニ付スル



ヲ要ス又本組事務ノ現況ヲ度リ主計ヨリ以下  
ノ社負ヲ増減シ且其事務ヲ分課スルノ權ヲ有  
ス

### 第八款

副社長ハ社長ヲ助ケテ組中一切ノ事務ヲ弁理  
シ各負ノ勤怠邪正ヲ監督シ其利害得失ヲ商議  
スルヲ掌リ其責任ハ大抵社長ト同シ又常ニ社  
長ノ代任ヲ兼テ且時々各舖支店等ニ臨檢スル  
件ハ社長ト同權ヲ有スヘシ

### 第九款

幹事ハ正副社長ニ次テ諸務ニ干與シ殊ニ金  
銀出納一切ノ事務ヲ管理シ常ニ諸帳簿ヲ點  
檢シテ會計上ノ曲直ヲ判明ニスルヲ掌リ  
社業實施ノ際ニ些少ノ障礙ヲモ無カラシメ  
ンテヲ要ス

### 第十款

主記ハ本組ニ関スル一切ノ約定書証書公用  
書類往復文書等ヲ總理シテ書記役其他之ニ  
屬スル諸員ヲ以テ巳レノ禱役ニ供シ疎漏放  
慢ノ弊ナカラシメ或ハ其事項ニヨリ正副社



長ノ代理ヲナスコトアリ又本組ノ諸條約ニハ  
必ス関與スヘキナリ

第十一款

主計ハ亦組中ノ協議ニ依テ着實端正ノ人ヲ  
撰用シ其本務ハ金銀ノ分配増減ヲ量リ會計  
ノ全体ニ注意シ平常幹事ニ向テ其實ヲ明ニ  
スルコトヲ要ス其出納ハ正副社長幹事ノ檢印  
ヲ得テ之ヲ行ヒ日計月算ノ會計簿ハ毎月之  
ヲ幹事ニ出シテ其檢査ヲ受クヘシ

但シ以上ノ委員ハ組中ノ公選ニヨルモ

ノトス以下幹事主記主計ノ屬員及ヒ其  
代小使等ノ如キハ其時ノ現況ニ隨ヒ社  
長ノ特撰ニ任スヘキナリ

第十二款

主計ヨリ以上ハ組中ノ協議ニ依テ定メ以下  
ハ社長ノ特撰ニ任スト虽モ性素實直ナル者  
ニシテ且ツ確實ナル保証人アルニ非カレハ  
之ヲ用フルコトヲ許サス

第十三款

別ニ組中ノ公選ヲ以テ議長一名ヲ薦舉シ組



中ノ衆議ヲ決スル時ニ當リ若シ議論兩岐ニ  
分レ其異同ノ數モ相等シキ中ハ議長ノ同意  
スル方ヲ采テ之ヲ決定スヘシ  
但シ衆議ヲ決スル中ハ社中三分二以上  
ノ同說ニ從フヘシ然レモ實際ノ現業ヲ  
弁セスシテ自己ノ私論ニ出ルモノ三分  
二以上ニ至ル中ハ尚ホ再度ノ衆議ニ及  
ビ決定ノ上其旨ヲ廣告スヘシ

第十四款

組中ノ會議ハ毎歲春秋ノ兩次ト定メ置キ某

月某日某地ニ於テ其席ヲ開クヘキ旨ヲ一個  
月前ニ報知スヘシ或ハ又大事ヲ決スル為メ  
臨時ノ會議ヲ開クコトアルヘシ

第十五款

本組ノ創業ニ擔當スル同盟ハ諸件ニ就テ別  
個ノ經費アリ。因テ之ヲ償フノ方法ヲ設ケ且  
特別ノ功勞アルヲ以テ毎年利益金ノ内幾分  
ヲ批テ其賞典ヲ行フヘシ

第十六款

組中一切ノ者隱ニ定款其他ノ法則ニ背キ奸



偽ノ所行有之ヲ偵知スルキハ速ニ其由ヲ明  
告シ決シテ之ヲ看過シ或ハ之ヲ庇蔽スヘカ  
ラス

第十七款

萬一正副社長ト社中ノ際ニ紛議ヲ生スルキ  
ハ双方ヨリ社外ノ者二名以上ヲ撰ンテ取扱  
人トナシ其衆説ニ就テ之ヲ判定セシムヘシ  
若シ其取扱人之ヲ判定シ能ハサルキハ其事  
由ヲ詳記シテ官裁ヲ仰キ此ノ定款及ヒ法則  
ニ據テ公正ノ裁決ヲ受クヘシ

第十八款

此定款ハ組中ノ集議ニヨリ何時ニテモ改正  
スルヲ得可シ然レモ改正ノ條款ハ亦必ス  
之ヲ公告スヘキナリ  
右ノ件々ハ組中一同遵守スヘキノ定款ニツ  
キ各姓名ヲ手署シ實印ヲ押捺シテ其信ヲ表  
スヘキ事



明治九年第十二月

東京府下第一大區十五區南茅場町廿六番地寄苗

滋賀縣下近江國野洲郡第四區富波村廿五番地

平民 角 甚 兵 衛 (印)

第十八號

大坂府下第三大區五小區

立賣堀北通五丁目拾六番地

平民 筑紫藤三郎



大對音下款三大副小五

九書文獻注通止丁月詩八書

平月